世界をつなぐ 日本の技術

東京工業大学

グローバル人材育成推進事業

理工人の未来設計

平成25年度シンポジウム

［対象］ 高校生／大学生／教育・企業関係者
適正技術の分野に興味ある方

日時 ▸ 2013.11.30(土) 14:00–18:40

講演 ▸ 基調講演：
海外を含む多様な経験により可能性を発見し、
自分らしいキャリアパスを考える
有賀 理（文部科学省 高等教育局 高等教育企画課 国際企画室長）

廃材がケニアを変える、ケニアが人生を変える
原口拓郎（GEヘルスケア・ジャパン）
畑井丈虎（東京工業大学無機材料工学科）

インドネシアでの火山防災プロジェクト
～「防災」による村の発展～
溝口昌晴（八千代エンジニアリング株式会社）

地平線に夢を求めて ～なぜ「世界のトヨタ」なのか～
岡部 聰（東海東京証券株式会社 取締役副会長）

MIT D-Lab発、インドを救う義足
遠藤 謙（ソニーコンピュータサイエンス研究所）

鳥取砂丘発，世界の乾燥地，
砂漠化問題への挑戦 ～鳥取の地の利を世界の知の利へ～
山本定博（鳥取大学農学部教授）

海外で本当に受け入れられる技術とは
横倉順治（東京工業大学 特任教授）

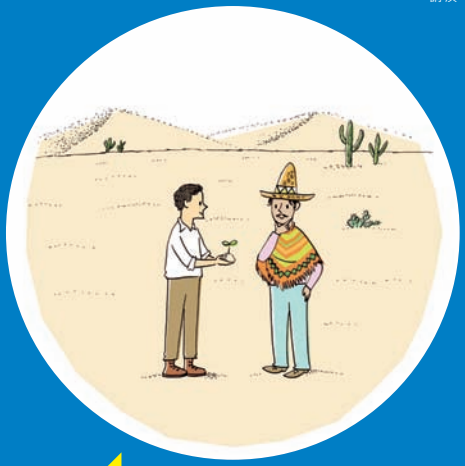
30億人のための取り組み
～アジア太平洋地域全ての人口への
エネルギー供給に向けたイノベーション～
ベンカタチャラム・アンブモリ（アジア開発銀行研究所）

会場 ▸ 東京工業大学大岡山キャンパス
東工大蔵前会館内「くらまえホール」
東京急行大井町線・目黒線「大岡山」駅下車 徒歩１分

ケニア 廃材がケニアを変える

ネパール なぜ「世界のトヨタ」なのか

インドネシア 「防災」が村を開発する



メキシコ 鳥取砂丘がメキシコで活躍

インド 義足でインドに夢を

モザンビーク ソーラーパネル1枚でできるビジネス

30億人にグリーンエネルギーを

右記webサイトの入力フォームよりお申し込みください。

https://form.gsic.titech.ac.jp/ghrd/sympo/entries/new

参加費：無料　問合せ先：東京工業大学 グローバル人材育成推進支援室　ghrd.info@jim.titech.ac.jp

第 1 回　東 京 工 業 大 学

グローバル人材育成推進事業シンポジウム

理工人の未来設計

世界をつなぐ日本の技術

世界の中で日本が置かれた立場を考えると、今後理工人がグローバルに活躍する場として、新興国が挙げられます。日本と新興国は、相互に協力しながら、発展することが重要で、そのための人材の育成が求められます。本シンポジウムは、科学技術分野での新興国の発展に貢献する人材育成をテーマとし、必要とされる様々な能力について、その能力が求められる理由、その能力育成のための方法などを具体的な事例を基に紹介し、本分野に興味を持つ学生のキャリア形成の参考となるようなメッセージを送ります。

講演者プロフィール（敬称略）

基調講演

海外を含む多様な経験により可能性を発見し、自分らしいキャリアパスを考える

有賀 理

文部科学省 高等教育局 高等教育企画課 国際企画室長／長野県の出身、東工大へ入学。宇宙、原子力、教育行政に携わり、現在、文部科学省でグローバル人材育成と大学の国際化を担当。米国ミシガン大学にて、修士（公共政策学）、博士（経済学）を修得。専門は技術発展と経済成長論。

廃材がケニアを変える、ケニアが人生を変える

原口拓郎（写真上）

GE ヘルスケア・ジャパン／筑波大学工学基礎学類卒業後、東京工業大学大学院国際開発工学専攻卒業。大学院入学と同時に休学し、6カ月間Kopernikフェローとしてケニアでソーラーランタンの調査に従事。その後、村人の収入向上を目的とした農業廃材から炭を作るプロジェクトに着手。現在は医療機器メーカーで勤務。

畑井丈虎（写真下）

東京工業大学無機材料工学科／東京工業大学無機材料工学科学部3年。宮城県仙台第一高校卒業後、1浪の末東京工業大学第2類に入学。高校までは野球に明け暮れていたが、大学入学後にケニアの現状に衝撃を受け、以後、ケニアの貧困問題を解決すべく奮闘している。

インドネシアでの火山防災プロジェクト

～「防災」による村の発展～

溝口昌晴

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部水資源部水工課専門課長／信州大学大学院農学研究科、森林工学専攻を修了後、八千代エンジニヤリング株式会社入社。以後、砂防計画、砂防施設設計業務および火山防災業務に携わる。2006年より、インドネシアでの火山防災プロジェクト、総合治水対策プロジェクトに従事。

地平線に夢を求めて

～なぜ「世界のトヨタ」なのか～

岡部 聰

東海東京証券株式会社 取締役副会長、元トヨタ自動車株式会社専務取締役／東京都日野市生まれ。東京工大社会工学科1期生。在学中にヒマラヤ登山後、地元山村に水道・軽架線を建設し、現地にて学生結婚。トヨタ自動車入社後、新興国事業を一貫して担当し、'89～'95年マレーシア駐在、アジア・中近東を熟知。'05年専務取締役、'12東海東京証券副会長。信条は、愛とロマン。

鳥取砂丘発，世界の乾燥地，砂漠化問題への挑戦

～鳥取の地の利を世界の知の利へ～

山本定博

鳥取大学農学部教授／博士（農学）。専門は環境土壌学。鳥取大学農学研究科修了後、鳥取県職員をへて、鳥取大学農学部。メキシコ、中央アジア、中国等の乾燥地をフィールドに塩類土壌の診断，修復，管理に関する研究を展開。メキシコでのJICAプロジェクトで短期専門家も経験。

海外で本当に受け入れられる技術とは

横倉順治

東京工業大学 グローバル人材育成推進支援室特任教授／宇都宮大学農業開発工学科を卒業後、フィリピンで青年海外協力隊・農業土木隊員。国際協力機構（JICA）入構、26年間開発途上国支援に従事。その他8年間、民間コンサルタントにて国内外の洪水対策と砂防に係る。今年3月から現職。専門は水資源・防災。

30億人のための取り組み

～アジア太平洋地域全ての人口へのエネルギー供給に向けたイノベーション～

ベンカタチャラム・アンブモリ

アジア開発銀行研究所 人材育成スペシャリスト／東京大学卒業。生物・環境工学博士号。同大学にて、アジア諸国が直面している天然資源管理問題、インフラ開発、制度問題、環境政策の課題について広範囲の研究を行ってきた。アジア工科大学研究員、民間企業でのコンサルタント、東京大学助教授を経て現職。

MIT D-Lab発、インドを救う義足

遠藤 謙

ソニーコンピュータサイエンス研究所 アソシエイトリサーチャー／マサチューセッツ工科大学メディアラボバイオメカニクスグループにて人間の身体能力の解析や下腿義足の開発に従事し、2012年博士取得。一方、マサチューセッツ工科大学D-labにて講師を勤め、途上国向けの義肢装具に関する講義を担当。

参加申込用紙　第1回 東京工業大学 グローバル人材育成推進事業シンポジウム「理工人の未来設計」～世界をつなぐ日本の技術～

FAX **03-5734-3120**

必要事項を記入の上、送信ください					
参加者情報	フリガナ			e-mail	
	お名前			学校名又は所属組織名	
同伴者情報	同伴者数		同伴者名		